

株 主 通 信

平成26年度(第96期)

(平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで)

◎ 株式会社 日立ハイテクノロジーズ
証券コード: 8036

Contents

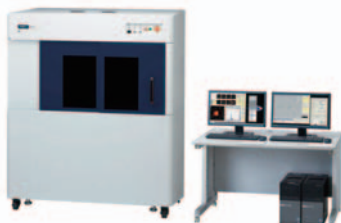
P 1	あなたのそばの日立ハイテック
P 3	トップインタビュー 「“Challenge to Change” (変革への挑戦)」
P 5	特集 日立ハイテック最前線
P 7	連結財務ハイライト
P 8	事業概況
P 9	会社概要/株式の状況/株主メモ
P10	アンケート結果のご報告
裏表紙	クーガーズ通信

あなたのそばの

X線異物解析装置

科学
・
医用

リチウムイオン電池や燃料電池の製造で問題となる微小な金属異物をよりの確により早く見つけることが可能です。ハイブリッドカーや電気自動車に搭載される電池の安全性や性能確保に貢献しています。

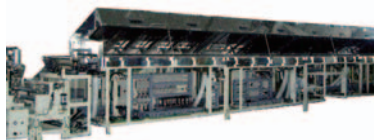


X線異物解析装置

リチウムイオン電池製造装置

産業
・
IT

CO₂の排出抑制に貢献するとして注目を浴びているハイブリッドカーなどに搭載されるリチウムイオン電池の組み立てに必要なシステムソリューションを提供しています。



車載用リチウムイオン電池製造装置

ハードディスクドライブ

産業
・
IT

振動や衝撃、高温など厳しい環境に耐える最先端のテクノロジーが満載された、小型で大容量の車載専用のハードディスクドライブデバイスを取り扱っています。



車載用
ハードディスクドライブ

日立ハイテックグループの取扱製品は、日常の今号ではその中から、私たちの生活に身近な「自動車」や「スマート

各種センサ

先端
産業

自動車に使用される圧力センサや回転センサ、排気温度センサなど、自動車の環境性能や快適性、安全性の向上に寄与する各種センサ類を取り扱っています。



温度センサ

素材・構造部材

先端
産業

小型サイズから大型サイズ、さらには特殊工法が必要な複雑な部材など、幅広いラインアップで高性能・高品質な鋳造部品、樹脂原料を取り扱っています。



鋳造部品

日立ハイテック

さまざまなシーンで、社会と関わっています。
「スマートフォン」と、日立ハイテックグループとのつながりをご紹介します。

半導体製造装置

電子
デバイス

半導体製造装置は、スマートフォンやタブレット端末に搭載される半導体の製造に不可欠な製品です。エッチング装置や測長SEMなどの製品ラインアップで、最先端の半導体製造に貢献しています。



エッチング装置

フラットパネルディスプレイ関連製造装置

ファイン
テック

スマートフォンのディスプレイ画面に使用される「フラットパネルディスプレイ」関連の製造装置や検査装置の開発、設計、製造、サービスを行っています。



フラットパネルディスプレイ製造装置

電子顕微鏡

科学
・
医用

電子顕微鏡は、スマートフォンに使われる部品の開発や材料の分析、品質管理などに使用され、品質の決定に重要な役割を果たしています。用途に応じ、走査電子顕微鏡、卓上顕微鏡など、幅広い製品ラインアップをそろえています。

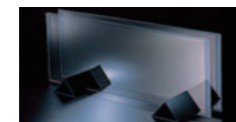


走査電子顕微鏡

スマートフォン用強化ガラス

先端
産業

スマートフォン・タブレット端末保護用の「化学強化ガラス基板」を取り扱っています。軽く、しなやかで、傷つきにくいというその特性で、日々持ち歩いて使用する、大事なスマートフォンを傷から守ります。



スマートフォン用強化ガラス

SIMカード

先端
産業

電話番号などの回線情報が記録されており、通話やデータ通信に必要な小型のICカードを取り扱っています。



SIMカード

“Challenge to Change” (変革への挑戦)

新たに執行役社長に就任しました宮崎正啓が、株主の皆様へ、業績の結果と経営への抱負についてご説明します。



執行役社長 宮崎 正啓

Q1

平成26年度の業績についてお聞かせください。

A1 ▶ 平成26年度は、売上高は前期比微減となったものの、当期純利益は過去最高益を更新しました。

平成26年度における業績は、科学・医用システムセグメントの医用分析装置が新興国市場・米国

市場向けに販売が増加し、電子デバイスシステムセグメントのプロセス装置が大手顧客向けに販売が増加するなど、主力製品が好調に推移しました。一方、ファインテックシステムセグメントにおいて一部不採算事業の縮小を行ったことや、産業・ITシステムセグメントおよび先端産業部材セグメントにおける一部製品の販売が減少した

ことにより、売上高は前期比(以下同)0.3%減の6,375億円となりました。営業利益は事業構造改革の効果もあり45%増の441億円、経常利益は36%増の422億円、当期純利益は56%増の281億円となりました。当期純利益については、平成19年度以来7年ぶりに過去最高益を更新することができました。

なお、配当金につきましては、株主の皆様に対する適正な利益還元を行うという基本方針のもと、業績を勘案し、前期比15円増配の1株当たり45円といたしました。

Q2

平成27年度の業績見通しについてお聞かせください。

A2 ▶ 平成27年度は、増収増益をめざしていきます。

当社では、「グローバル成長戦略の加速」を経営方針の一つとしており、グローバル経営をさらに強化するために、従来の日本基準に替え、経営成果が国際的に比較可能となる「国際財務報告

基準(IFRS※¹)」を任意適用いたします。平成27年度の業績見通しは、売上収益を前期比(※²)9%増の6,770億円、税引前当期利益を2%増の460億円、当期利益を7%増の344億円と増収増益を見込んでおり、引き続き成長路線を加速します。なお、1株当たり配当金につきましては、前期比10円増配の55円を予想しております。

※1 IFRS : International Financial Reporting Standards

※2 平成26年度IFRS値との比較

Q3

宮崎社長の経営への抱負について
お聞かせください。

A3▶ “Challenge to Change” (変革への挑戦)を実施し企業ビジョンの達成をめざし続けます。

日立ハイテクグループは、「ハイテク・ソリューション事業におけるグローバルトップをめざします」という企業ビジョンを掲げ、「バイオ・ヘルスケア」「社会・産業インフラ」「先端産業システム」の3重点事業領域において、社会にベストソリューションを提供することで、「お客様が最先端・最前線の

事業創造企業になっていただくために最大限の貢献をする」ことをミッションとしています。

経営方針としては「成長分野へのリソースシフトによる事業ポートフォリオの強化」「事業領域および地域特性を踏まえたグローバル成長戦略の加速」「お客様視点での事業創造力の強化」を進めることを掲げています。この経営方針を着実に実現していくためには、私は“Challenge to Change” (変革への挑戦) が不可欠であると考えており、「全体最適意識の浸透による自律分散型組織運営の実行」を徹底するとともに、お客様の個別化ニーズにきめ細かくお応えするために、高度に専門化の進んだソリューションビジネスの推進を図っていきます。

新社長プロフィール

みやざき まさひろ
宮崎 正啓

略歴

昭和52年4月 日製産業入社
平成27年4月 日立ハイテクノロジーズ 執行役社長

生年月日 昭和29年4月13日(61歳)

出身地 滋賀県

趣味 読書、スポーツ

座右の銘 得意泰然 失意淡然

最近感動したこと 20年以上前に一緒に働いたマレーシアと米国の元スタッフから、LinkedIn経由でメッセージをもらい、SNSのすごさがわかったこと。



Q4

ステークホルダーや社会とのかかわりについて
お聞かせください。

A4▶ 日立ハイテクらしい価値の提供を通じて、豊かな社会の実現に貢献します。

日立ハイテクグループの存在は、社会とのかかわりの中で育まれるものと認識しています。社会から信頼されるCSR企業として、創造性・革新性のある価値の提供を通じて社会が抱える課題の解決に貢献するとともに、株主様をはじめとするステークホルダーとの対話を通じて、企業価値の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、今後ともご指導をいただきたく、よろしくお願いいたします。

新幹線の安全運行を支える 検測技術に迫る



新幹線電気・軌道総合試験車「イーストアイ」[提供:JR東日本様]

安全運行を支える「鉄道のお医者さん」

昭和39年の開業以来、線路網を8路線に広げ、いまや1日当たりの輸送人員は平均90万人を突破し、日本の大動脈として走り続けている新幹線。開業以来新幹線の高速かつ安全な運行を支えるのが、レールのゆがみや架線の摩耗などを検査・測定(検測)する「新幹線電気・軌道総合試験車」(以下「検査用新幹線」)です。

時刻表には載らない、この「検査用新幹線」が搭載する軌道検測装置・架線検測装置に、日立ハイテクグループが培ってきた高度な光学応用技術が活かされています。



時速275kmで走行しながら コンマ数ミリのゆがみや摩耗を検測する技術

レールは、その上を高速で走る車両の荷重や衝撃等によってゆがみが生じます。また架線は、パンタグラフが均一に接触するように左右ジグザグに張られていますが、パンタグラフの接触の衝撃等により、そのジグザグの幅が限界を超えたり、架線の一部に摩耗が生じます。このレールのゆがみや架線の位置ずれ・摩耗の度合いが進むと列車の乗り心地や走行

安全性に影響を与えるため、鉄道会社では定期的に検測を行います。

日立ハイテクのグループ会社である日立ハイテクファインシステムズが開発した検測装置では、新幹線の営業速度（時速275km）で走行しながら、レールや架線に触れることなく、ゆがみや摩耗をコンマ数ミリで検出することができます。



軌道検測装置（営業車搭載型）

また、これらの技術を活かし、在来線の営業車両下部に、レールの状態を監視するモニタリング装置を搭載し、軌道の状態を検測する取り組みも始まっています。



世界に進出する「安全」の技術

正確さ、安全性、快適性、利便性において世界屈指の鉄道システムともいえる日本の新幹線。その新幹線の安全運行を支える日立ハイテクの検測技術や検測装置は、新たな展開を始めています。

新たに1両タイプの自走式軌道検測車両や牽引式の軌道検測装置をラインアップし

たことから、私鉄や地下鉄をターゲットにした国内市場でのプロモーションが可能になりました。また、海外においても、検測車両の受注に向けて取り組んでいます。

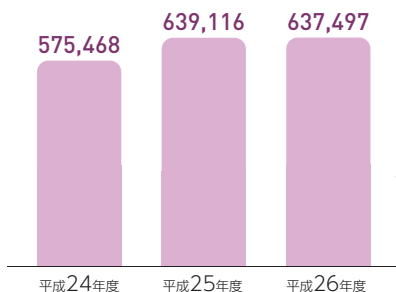
今後とも、国内のみならず世界の鉄道マーケットでの販路開拓にも注力していきます。



牽引式軌道検測装置

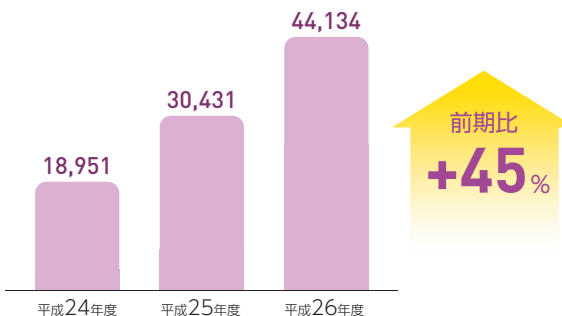
売上高

(百万円)



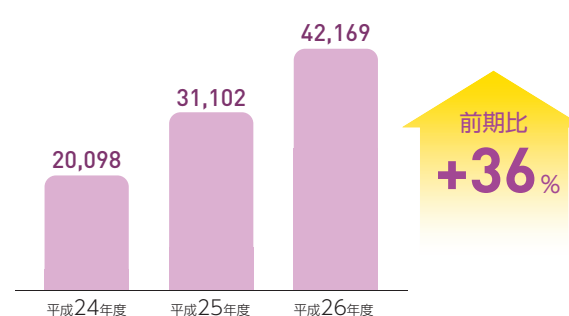
営業利益

(百万円)



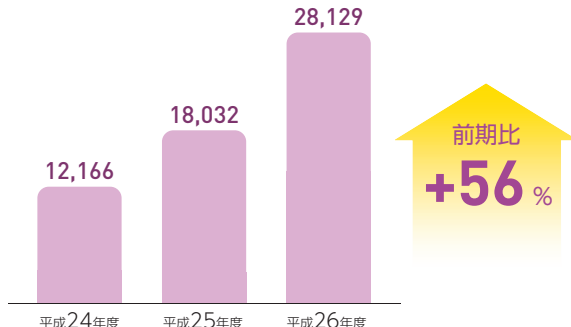
経常利益

(百万円)

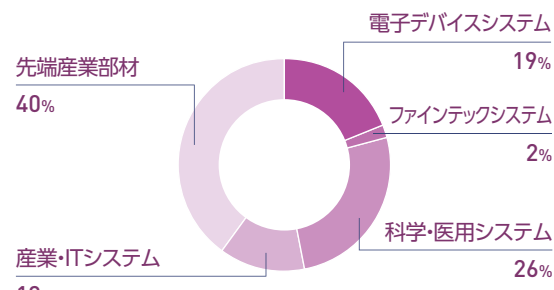


当期純利益

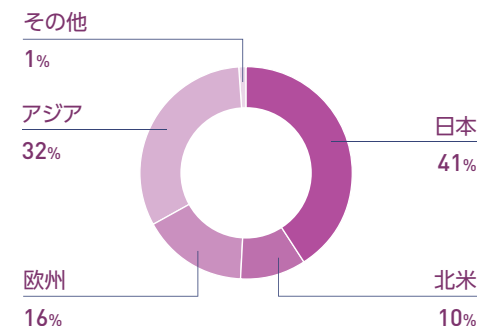
(百万円)



セグメント別売上高比率



地域別売上高比率



■ 決算のポイント

POINT 当期純利益


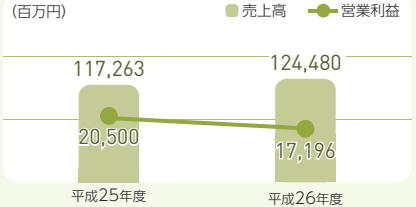

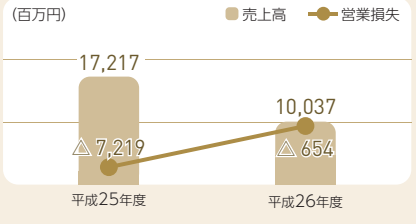

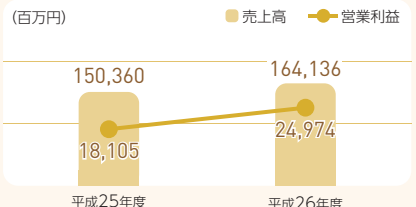

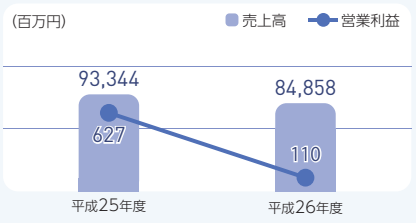

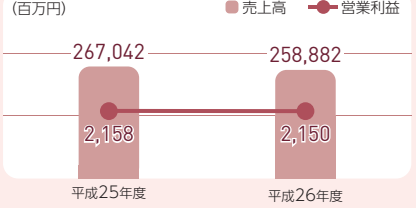
平成19年度以来7年ぶりに過去最高益を更新しました。

POINT 売上高

科学・医用システムセグメントにおいて、医用分析装置の新興国市場向け販売の増加や米国市場向けパッケージ販売の増加があったものの、ファインテックシステムセグメントの不採算事業縮小による大幅減収により、前期と比べ微減となりました。

POINT 営業利益

科学・医用システムセグメントの売上高が増加したことや、事業構造改革の効果により、前期と比べ大幅な増益となりました。

		売上高／営業損益	売上高	営業利益	決算のポイント
電子デバイスシステム		(百万円)  売上高 117,263 (平成25年度) → 124,480 (平成26年度) 営業利益 20,500 (平成25年度) → 17,196 (平成26年度)	売上高 1,245 億円 前期比 +6%	営業利益 172 億円 前期比 △16%	プロセス装置事業は、大手主要顧客向けが好調であったため大幅に増加しました。評価装置事業は、外観検査装置の販売台数が伸びたものの測長SEMが一部量産投資の後倒しの影響を受け減少しました。後工程・実装装置事業は、後工程装置(ボンディング装置)の事業譲渡および実装装置(チップマウンタ)の事業撤退を実施しました。
			売上高 100 億円 前期比 △42%	営業損失 △7 億円 前期比 +66 億円	
			売上高 1,641 億円 前期比 +9%	営業利益 250 億円 前期比 +38%	
			売上高 849 億円 前期比 △9%	営業利益 1 億円 前期比 △82%	
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	
ファインテックシステム		(百万円)  売上高 17,217 (平成25年度) → 10,037 (平成26年度) 営業損失 7,219 (平成25年度) → 654 (平成26年度)	売上高 100 億円 前期比 △42%	営業損失 △7 億円 前期比 +66 億円	FPD関連製造装置の不採算事業を縮小したことにより、産業インフラ事業は大幅に減少しました。社会インフラ検査事業は、鉄道関連検査装置が増加しました。営業損失は、事業構造改革の効果により大幅に改善しました。
			売上高 1,641 億円 前期比 +9%	営業利益 250 億円 前期比 +38%	
			売上高 849 億円 前期比 △9%	営業利益 1 億円 前期比 △82%	
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	
科学・医用システム		(百万円)  売上高 150,360 (平成25年度) → 164,136 (平成26年度) 営業利益 18,105 (平成25年度) → 24,974 (平成26年度)	売上高 1,641 億円 前期比 +9%	営業利益 250 億円 前期比 +38%	科学システム事業(電子顕微鏡・科学機器)は、欧米市場向け販売が増加したものの、消費税増税や補正予算執行の反動による国内市場の設備投資先送り等の影響を受け、減少となりました。バイオ・メディカル事業は、欧州市場の回復ペースが鈍い中で、新興国市場向け販売が好調に推移したことや、米国市場において大規模顧客向けに生化学・免疫分析装置と検体前処理システムのパッケージ販売等が拡大したことにより大幅に増加しました。
			売上高 849 億円 前期比 △9%	営業利益 1 億円 前期比 △82%	
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	
産業・ITシステム		(百万円)  売上高 93,344 (平成25年度) → 84,858 (平成26年度) 営業利益 627 (平成25年度) → 110 (平成26年度)	売上高 849 億円 前期比 △9%	営業利益 1 億円 前期比 △82%	産業ソリューション事業は、顧客の積極的な設備投資を背景に自動車部品自動組立システムが好調に推移し、また太陽光EPC案件の売上計上に加え、太陽光関連部材が販売を伸ばしたことから増加しました。ICTソリューション事業は、車載用ハードディスクドライブは増加したものの、通信用機器において携帯電話の販売が減少したことにより大幅に減少しました。
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	
先端産業部材		(百万円)  売上高 267,042 (平成25年度) → 258,882 (平成26年度) 営業利益 2,153 (平成25年度) → 2,150 (平成26年度)	売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	自動車・輸送機器関連部材は、米国および中国を中心に引き続き堅調に推移したことにより増加しました。エレクトロニクス関連部材は、スマートフォン関連の強化ガラス等の部材が中国向けに伸長したものの、その他電池等の部材の販売減により減少しました。
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	
			売上高 2,589 億円 前期比 △3%	営業利益 22 億円 前期比 △0.4%	

※SEM(Scanning Electron Microscope)：走査電子顕微鏡 ※FPD(Flat Panel Display)：フラットパネルディスプレイ ※EPC(Engineering, Procurement and Construction)：設計、調達、建設
 ※ICT(Information and Communication Technology)：情報通信技術

会社概要 (平成27年6月19日現在)

商 号	株式会社日立ハイテクノロジーズ
本社所在地	東京都港区西新橋一丁目24番14号
設立年月日	昭和22年4月12日
資 本 金	7,938,480,525円
従 業 員 数	連結 10,012名 単独 3,768名

※従業員数は平成27年3月31日現在

役 員	取締役	取締役会長	久 田 眞佐男	執行役専務	池 田 俊 幸
		取 締 役	宮 崎 正 啓	執行役専務	木 村 勝 高
		取 締 役	大 楽 義 一	執行役常務	宇 野 俊 一
		社外取締役	早 川 英 世	執行役常務	佐 藤 真 司
		社外取締役	戸 田 博 道	執行役常務	中 島 隆 一
		社外取締役	西 見 有 二	執行役常務	橋 本 純 一
		社外取締役	中 村 豊 明	執 行 役	大 本 博 秀
		社外取締役	北 山 隆 一	執 行 役	田 嶋 浩 慈
	執行役	代表執行役	宮 崎 正 啓	執 行 役	岡 田 穰 務
執行役社長		執 行 役		佐 藤 雄 司	
代表執行役		執 行 役		久 田 眞佐男	
	執行役副社長	御手洗 尚 樹	執 行 役		

株式の状況 (平成27年3月31日現在)

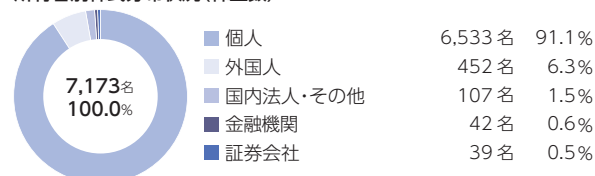
発行可能株式総数	350,000,000株
発行済株式総数	137,738,730株
株主数	7,173名

株式分布状況

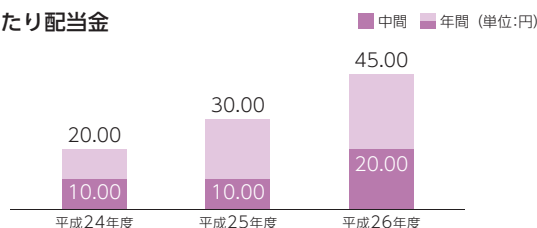
所有者別株式分布状況(持株数)



所有者別株式分布状況(株主数)



1株当たり配当金



大株主

(上位10名)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
株式会社日立製作所	71,135,619	51.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	5,317,100	3.87
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	4,545,800	3.31
日立ハイテクノロジーズ社員持株会	1,719,019	1.25
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505225	1,378,830	1.00
818517ノムラルクスマルチカレンシ ジエイピストクリド	1,267,700	0.92
ジェーピー モルガン チェース バンク 385093	1,264,500	0.92
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー レギュラーアカウント	1,201,452	0.87
ピクテアンドシーヨーロッパエスエー	980,300	0.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	952,300	0.69

(注) 持株比率については、自己株式(206,223株)を控除して算出しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 (市場第一部)
剰余金の配当の 受領株主確定日	毎年3月末日および9月末日
株主名簿管理人	東京証券代行株式会社
同上事務取扱場所	〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番2号 (日本ビル4階)
[郵便物送付先・連絡先]	〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター
お問合せ先	☎ 0120-49-7009
株主名簿管理人の 事務取次所	三井住友信託銀行株式会社 全国本支店(コンサルティングオフィス・コン サルプラザ・istationを除く)

住所変更・単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

お取引口座のある証券会社等にお申し出ください。
ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である東京証券代行株式会社にお申し出ください。

未支払配当金のお支払について

株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。

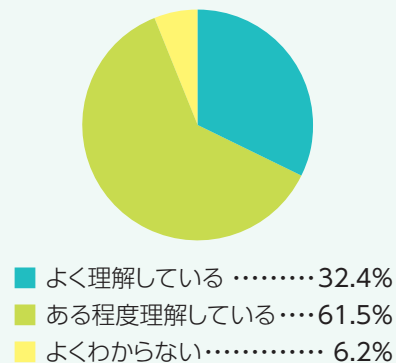
「配当金計算書」について

配当金を銀行等口座振込(株式数比例配分方式を除きます。)または配当金領収証にてお受取りの場合、お支払の際ご送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。なお、株式数比例配分方式をご選択されている株主様におかれましては、お取引口座のある証券会社等にご確認ください。

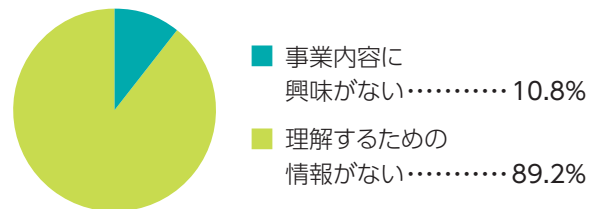
昨年「株主通信」に同封しましたアンケートにつきまして、1,027名の株主の皆様からご回答いただきました。誠にありがとうございました。
主なアンケート結果を以下のとおりご報告申し上げます。

● 主なアンケート結果 ●

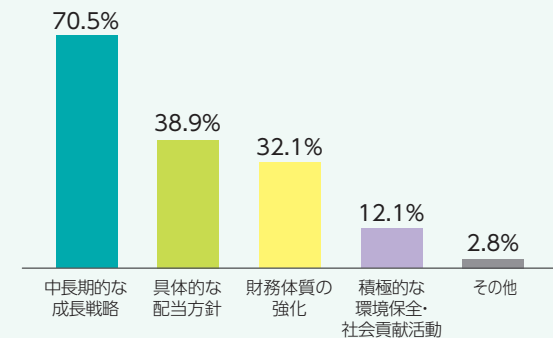
事業内容へのご理解



「ある程度理解している」「よくわからない」と回答された理由



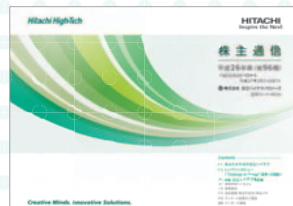
当社施策へのご要望（複数回答）



当社の事業内容へのご理解については、「ある程度理解している」「よくわからない」を合計して約7割となり、その理由のほとんどが「理解するための情報がない」とのご意見でした。
また当社施策へのご要望につきましては、「中長期的な成長戦略」「具体的な配当方針」など将来性を表す内容が上位を占めました。アンケート結果を踏まえ、積極的な情報発信を行うことで、株主の皆様からのご意見やご要望に応じてまいります。

情報提供ツール

● 株主通信



● ウェブサイト



今後とも株主通信やウェブサイトの充実を図ってまいります。

その他株主の皆様からのご意見

思っていた以上に広範囲な事業展開を“あなたのそばの日立ハイテック”で知りました。

“事業を通じての社会貢献”という考え方に共感しています。今後とも堅実ながら積極的な事業展開を期待しております。

電子デバイスシステム、科学・医用システムに次ぐ収益の柱になるのは何なのか？ 今後の成長を楽しみにしております。

今回の株主通信で事業内容を詳しく知ることができました。最近血液検査結果が出るまでの時間が短くなってきているのを実感していました。ひょっとして私が行っている病院でも日立ハイテックの装置が導入されているかもと、とても興味深く拝見しました。

昨シーズンも多くのご声援をいただき、ありがとうございました。



クーガーズ・
マスコットキャラクター
クウー



14-15 Wリーグ レギュラーシーズン 結果

◇ 2勝28敗 (11チーム中11位)

※試合の詳細結果は「日立ハイテク クーガーズ 公式ウェブサイト」をご覧ください。

日立ハイテク クーガーズ公式ウェブサイト

<http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsor/cougars/>

f クーガーズ Facebook

クーガーズではウェブサイトに加えてFacebookでも情報を発信しています。試合の様子を収めた動画や応援メッセージなどもご覧いただけます。是非ご覧ください。



<https://www.facebook.com/HitachiHighTech.Cougars/>

女子バスケットボール部クーガーズからのごあいさつ

昨シーズンも熱いご声援をいただき、ありがとうございました。皆様からご支援、ご声援をいただいたにもかかわらず、2勝28敗という不本意な成績に終わりました。この結果を真摯に受け止め、今シーズンは上位をめざし、選手、スタッフ一丸となり努力してまいりますので、ご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。



株式会社 日立ハイテクノロジーズ

〒105-8717 東京都港区西新橋一丁目24番14号

Tel : (03) 3504-7111

URL : <http://www.hitachi-hightech.com/jp/>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。